

有限会社 キーポイントホーム



ユーザー訪問

苦米地 様邸

DATA

青森市大野

2022年9月竣工

■床面積/33.25坪(110.13㎡)

■使用青森県産材/《構造材》ヒバ(土台)、スギ(柱)
《内装材》スギ無垢材(床、壁、天井、建具)。

エアコン1台で全館空調

家の断熱性能が高いかどうかを、計測による数値ではなく、室内で敏感に感じ取られる場所がある。階段だ。下から一段一段上がっていくと、1階はエアコンで冷えているけど、階段の途中から、水から湯に変わるようにぬるくなり、上がり切った2階は耐えられないほどの暑さ——という家は断熱が弱い。今回ご紹介の苦米地様邸は、階段を上る間に温度変化は全くなく、2階も1階同様の涼しさであった。温度差がないうえ、地域にも住む人にも馴染む県産木材で建てた長期優良住宅の苦米地様邸。体に負荷がかからない環境の住まいこそ健康長寿への鍵だ、と実感した。

体に負荷がかからない住環境



風もなく音もない

玄関の内側に入ると、外の猛暑とは別天地の、高原にでも来たような涼しさだった。取材に先がけ(有)キーポイントホームの阿保勝之社長から、苦米地様邸はエアコン1台による床下ダクト式冷暖房空調システムを採用した、と聞いていた。家の床下にエアコン本体から出る冷風や温風を吹き込む専用BOXがあり、このBOXにダクトがつながっていて、1階は床ガリリから、2階はダクトとファンを使って天井から吹き出すしくみ。音もなく風もなく、

猛暑の外も室内と同じ25℃と錯覚しそうなほどに自然な涼しさだ。

快適な住まいを手に入れたものの、実は苦米地様が建て替えに踏み切るまでには大きな難問が押し寄せた。コロナショックに端を発する建築費の大幅な高騰。どう乗り切ったか――。その経緯を伺った。

ご主人の話 中古住宅を買ったのが20年前です。初めから大野に絞って物件を探したわけではなく、西は新城、東は八重田あたりまで広く見て回った中で、築20年でさほど古くなく、私の職場にも、子供たちの

小学校にも近かったここに決めて、以来20年間暮らしてきました。そのつど必要に応じて、例えば子供たちが中学校に上がってから部屋にエアコンを付けたら、外壁をリフォームしたり、風呂をユニットバスに直したりしてきましたけど、一つ一つ対処していったのでは追い付かなくなってきたんです。建て替えの時期がきたというわけですね。

奥様の話 4年前から息子が犬を飼い出したことも、建て直すことにしたきっかけの一つです。共働きなので、犬は家に置いていかなければなりません。冬は寒く、犬もストーブなしでは過ごせないのです。灯油焚きストーブの火を弱くして出掛けるので、留守中に何かあったら、と気になります。家の断熱を改良して、セントラルヒーティングに替えるとなると大掛かりな工事になるし、いつそ建て替えたほうが……という考えに落ち着いたんです。まるごと

と新しくなりますしね。
――工務店探して、まず何から始めましたか。

ご主人の話 近くに大手ハウスメーカーの総合展示場があるので、そこから見学するのになりました。見て決める、のではなく、まず見てみるということです。総合展示場に建っていた6棟の展示場を全部見ました。
“大手”の次は“地元”です。青森市内の工務店の展示場や、完成見学会の家を見に行きました。中古住宅を探したときのように、見ているうちに気に入ったのが見つかるはずだから。

奥様の話 わたしが“自然素材の家”を希望したのは、化学物質の臭いが体質的に合わないからです。ハウスメーカーの展示場を見学したときに、鼻にツーンとくる家もありました。少しでも拒否反応が起きるような生活環境は受け入れられません。それで、“自然素材の家”の要素を突き詰めてみました。“木”と“漆喰”に行き着きま



調湿効果や抗菌作用のある漆喰とスギの無垢材がご家族の健康を守っている



テーブルの下にエアコン本体を収納し、建具で目隠し

した。そういう家づくりをして
いるのは地元工務店でした。

ご主人の話 一口に「木」とい
ても「無垢材」「合板」「集成材」
があって、山から木を伐り出
し、乾燥させて製材した木が
「無垢材」だと見学するうちに
分かってきました。中でもスギ
には、室内の湿気を吸ったり吐
いたりする調湿効果や、抗菌作
用もあることも知りました。
「漆喰」にも同じ効果があるそ
うです。無垢材と漆喰を使って
いる工務店に的を絞ることにし
ました。

阿保勝之社長の話 ご主人が
当社を訪ねて来られたのは2
020年3月のことでした。最

初はご主人お一人でした。『青
森県産材の家』の本を見て当社
を知ったのだそうです。ご主人
が来られたときはちょうど展
示場のリビングを『ドッグカ
フェ』に改修している最中でし
た。苦米地様も愛犬を飼われて
いるとのことでしたので、完成
時にご案内することになりました
。ドッグカフェが完成したの
はその2か月後の5月でした。
今度はご夫婦で見学に来てく
ださいました。

苦米地様が最終的に当社に
決めてくださったのは「愛犬」の



無垢材のやさしいぬくもりに愛犬のハクくんも満足そう



繋がりもありましたが、その年
の11月にご案内した、当社の
ユーズアのK様邸宅の「全館空
調システム」にご主人が強く惹
かれたからです。エアコン1台
で家全体を冷暖房する最新シ
ステムで、普通のエアコンと違
うのはエアコン本体を壁に取り
付けないことです。K様邸で
は和室の押し入れの下端に設
置し、建具で目隠しをしまし
た。そこにエアコン本体がある
とは、言わなければ分かりませ
ん。もう一つの違いは、冷風や温
風が直接室内にはなく、床下
に吹き込むところです。温かい
風は自然と床の格子の換気ガ
ラリから立ち上ってくるし、重
い冷気は24時間換気を利用し
て室内に対流させるしくみに
なっています。エアコンが目につ
かず、存在を意識しないから、
室内の温度が自然の気候のよ
うに体感するのです。

せんでした。仙台に、その空調
システムのメーカーの展示場が
あります。2階建てです。苦米
地様と一緒に見学に行きまし
た。

ご主人の話 暖房はパネル
ヒーターで、冷房はエアコン。阿
保さんがそのユーズアのお宅へ
案内してくれるまではそう決
めていました。暖房と冷房が一
つになった、理想の空調システ
ムに出会った思いでしたよ。風
が吹き出るタイプのエアコンだ
と、妻が苦手なんです。風もな
いし、音もぜんぜんしません。
自然な空気が何より気に入
りました。



エアコンが目につかないので、室内の温度が自然の気候のように体感する

建築費高騰の波が

阿保社長の話 契約頂いたのは2021年9月でした。それまでは良かったんです。ところが、思わぬ問題が持ち上がりました。今までに体験したことのない建築費高騰の波が押し寄せてきたのです。発端は例の新型コロナです。アメリカで、コ

ロナの感染を避けようと郊外に家を建てて移住する人が増えたものだからアメリカ国内で木材の需要が高まって、日本への輸出に当たっていた木材が入ってこなくなりました。それが例のウッドショック。木材だけでなく、経済のバランスが崩れていろいろなものが値上がりし出



24時間換気からイオンが発生し、どの部屋も高原みたいに空気が新鮮

し、建築費も跳ね上がりしました。契約頂いたものの、その後も値上がりは収まるどころか、ますます右肩上がりです。建物の坪数を縮小してくれるなどが、そうしているうちにも資材はどんどん値上がりします。これには困り果てました。

ご主人の話 要望をさらに減らさなければならぬとなると、考えますよね。木は無垢材で壁は漆喰だし、国交省の補助金を活用して断熱・耐震性に優れた長期優良住宅だし、エアコン1台で冷暖房できるし、時間をかけて絞り込んだのがキーポイントだし……と考えれば諦めるのは忍びないけど、予定より大幅な出費となると立ち止まりますよね。そんなときに、妻が言ったんです、「やろうよパパ」って。新しい家が欲しいんです。そりゃ私だって。子供たちも。愛犬も。来年になれば家の解体費だってさらに上がるんです。建てたときが一番安い。そ

う思って踏ん切りました。

奥様の話 住宅性能が高い分、光熱費などのランニングコストが低く抑えられる、と阿保さんが言っていました。住んでみて、そのことを実感しています。暑くなく寒くなく、1階も2階も同じ快適な空気環境で暮らしていけることがお金をかけた最大の価値ですね。しかも24時間換気からイオンが発生（イオンクラスター空気清浄機能付）するので、高原の空気みたいに新鮮ですしね。

■ 苫米地様邸へ住宅性能①認定長期優良住宅・耐震等級2②国交省の地域型グリーン化住宅補助金受給③BELS（建築物エネルギー性能表示制度）評価・UA値（外皮平均熱貫流率）0.24W/m²k（地域基準0.56）、一次エネルギー消費量削減率（BER）0.6（削減率が高いほど省エネ住宅）④気密測定による隙間相当面積C値0.1cm/m²へ住宅設備①エアコン1台による床下ダクト式冷暖房空調システム②24時間換気装置にイオンクラスター空気清浄機能をプラス



有限会社 キーポイントホーム

弘前市泉野3丁目11-11
TEL.0172-88-7705 FAX.0172-88-7706
http://www.ki-pointhome.com/
E-mail: staff@ki-pointhome.com



「あおり産・木の家」常設展示場&ドッグカフェ

寝室を居間へ移して暖かく



地産地消に取り組む
大工・工務店

07

有限会社 キーポイントホーム

ユーザー訪問

木村 美津子 様邸

DATA

弘前市松森町

2020年12月リフォーム完成

■延べ床面積／約45坪(約149㎡) (このうち1階の一部内装をリフォーム)

■使用青森県産材／《内装材》スギ無垢材(一部内装、押入れ床)など。

暮らしに寄り添う地元工務店

新築した家も、年を重ねれば、建具が渋いとか床が鳴るとか、あれこれ調子が悪くなってくるのは人の体と同じだ。また間取りが生活スタイルに合わなくなってきたり発生する不具合も多い。木村様の場合は「寒さ」だった。長年寝室として使ってきた北向きの和室の寒さが耐え難くなってきた。しかも腰を悪くして布団の上げ下ろしが辛い。寝室を居間に移す提案をしたのが、(有)キーポイントホームの阿保勝之社長。食堂で焚いているストーブの熱が、続きの居間にも行き渡って暖かい。ちよっとしたアドバイスでいかに住み心地が改善されるか。木村様邸の事例をご紹介します。



木が好きなんです

切れた電球を見上げて困り顔をしているお年寄りに代わって、若い人が電球を取り替えてくれる——そんなテレビコマーシャルがあった。電球だけでなく、日常生活では小さなことこそ困っているものだ。電話をかけて相談しようにも新築した当時の工務店はもうないし、知り合いの大工もない。電話帳で工務店を調べるにしても数あるうちからどう選べばいいのか判断しようもないし、知らないところに相談すれば不必要なりフォームを強要されて高額

な代金を請求されたという悪徳なニュースばかりが浮かぶ——それが現状でしょう、と阿保社長は話す。

「家づくりを通して、地域の人の暮らしに寄り添うのが地元工務店の役割だと考えます。人が健康診断を受けるのと同様に、家もまた小まめにメンテナンスしていく。近くの工務店だからこそ対応できるので」——阿保社長の信条である。

——キーポイントホームと木村様の出会いからお聞かせください。

阿保社長の話 姉なんです。私

の姉。嫁ぎ先が（指差して）そこなんですよ。すぐ隣。嫁いできて以来、ずっと木村様とご近所付き合ひさせていたでいる姉から、「木村さん、家のことでいろいろ困っているみたいだから相談にのってあげて」と言われて、訪問してみました。

木村様から伺った話によると——ここに家を新築したのは50数年前。今から20年前に大掛かりなりフォームをしたそうです。その際に、寝室に使っている1階の和室の押入れの湿気が以前からひどかったので、大工さんに話してそれも直し

てもらったけど、内側を張り替えたヒバの板がぶよぶよになってきて、実は全然直っていません。それに、寝室の寒さが堪えるようになってきたし、おまけに腰を悪くして布団の上げ下げが難儀になって、困っていたそうです。

木村様の話 「姉から話を聞いて……」と訪ねてきてくれたのが阿保さんでした。弟さんが工務店の社長さんだとは知りませんでした。名刺に書いてある『木』の字は、社名のキーポイントホームの「キ」で、家づくりは『木』がポイントという意味を



居間に置かれたヒバ製のベッドは家具職人の前田さんの手作り



食堂とひと続きになった奥の部屋が寝室を兼ねた居間



押入れの中の湿気の問題もリフォーム後は解決し、健康を取り戻した和室

込めたのだそうです。わたし、木が好きなんですよ。自然の木の、どっしりとした重さが良くてね。客間に置いている座卓はセンの木で、食堂のテーブルはナラ、椅子はトチです。木肌の色合いも木



押入れの床下に防湿シートを敷設し、床組みにも防湿シートと板状の発泡断熱材を敷き、壁・天井にも断熱材を入れ、吸湿効果のあるスギ板を床に敷いた

目にも味わいがある、大好きです。だから、名刺を見て、『木』に思いのあるいい人が来てくれた、って思ってます。

阿保社長の話

生活上の不具合は、その家の間取りに起因する場合が多いものです。木村様邸の1階は、玄関ホールを中心に、右手に台所・食堂・居間、左手に和室が3部屋あります。客間と仏間が西側の庭に面して並び、仏間と続き間になった北向ききの6畳間が寝室です。陽が当たらないので冬は底冷えがして、寝る1時間前にストーブを点けて暖めておくん

だそうです。暖房がもったいないし、だいいち寝ている部屋が寒いのは健康に良くありません。

木村様が1日のうち一番長くいるのは食堂と、隣の居間です。食堂にFF式ストーブが付いていて、ひと続きになった台所と食堂と居間はいつも暖まっています。食堂の隣にトイレや風呂の水回りがまとまっているから、居間に寝るようになると、風呂上りの体を冷やして離れた寝室まで行かなくてもよくなりますし、布団をベッドに代えれば腰の問題も解決します。

寝室にするために、居間周りの内装を一部リフォームしました。従来の入り口はスギの羽目板を張って塞ぎ、その反対側の居間の内側にもスギを張って化粧をしました。壁面にはめ込んだ鏡は、もともと居間に置いてあった鏡台の鏡を取り外して有効利用したものです。ベッドは、家具職人の前田さん(あ

じやら工房・前田直樹氏)がヒバで製作した手作りです。

木村様の話 わたしと同年輩のお友達に聞いたら、皆さんベッドを使っているんだそうです。ベッドなら布団の上げ下ろしがないしね。今までずっと布団だったからベッドには馴染みがないし、それと居間にベッドを置くイメージがうまく浮かばなかったけど、暖かくて明るいし、ベッドのヒバの香りがいいし、もつと早くこうすれば良かったって思いましたよ。

手作りの木の椅子

阿保社長の話 家具職人の前田さんとお付き合いするようになったのは、当社の展示場の



前田さん製作のヒバの椅子



家具職人の丁寧な仕事ぶりがうかがえる居間のテーブル

リビングを『ドッグカフェ』にリフォームした際、仕事仲間から紹介されて、テーブルを依頼したのが最初でした。以来、新築したユーズー宅のダイニングテーブルや椅子などは前田さん専属で作ってもらっています。ベッドが気に入った木村様は、居間に置く一人掛けのテーブルも前田さんに頼みました。木の良さだけでなく、前田さんの丁寧な仕事ぶりに惚れ込んだのでしよう。

木村様の話 とっても使い心地がいいんですよ。足が横の棒に乗せられて楽だし、角を丸めてあるから足触りもいいしね。椅子は丸椅子で間に合わせていたんだけど、背もたれがないから疲れてくるんです。それで、今度は背もたれ付きの椅子も前田さんに作ってもらうことにしました。椅子一つにしても、前田さんが図面を書いて持ってきて打ち合わせしてくれるし、阿保さんも立ち会ってくれますね……、安心です。

阿保社長の話 “寒さ”の次は、押入れの“湿気”の問題です。北側で、狭い空間だから、地面から立ちのぼった湿気が籠る条件がそろっているわけです。リフォームした際に、きちんと防湿対策を施していれば解決できたのですが、床と腰壁にヒバの板を張っただけで、それでは単なる目隠しです。襖を折れ戸に替えて、表面的には押入れから新しいクローゼットに替わったように見えたものの、問題は全然解決していなかったわけです。これではリフォームじゃありません。

湿気を元から断つには、地面から湿気が上がらないように防湿シートを敷設するのが先決です。床組みにも防湿(気密)シートと、湿気を吸わない板状の発泡断熱材を敷き、さらに押入れの壁、天井にも断熱材を入れたうえで、防湿・気密施工を行って、外気との温度差をなくしました。ここまで完璧にしないと湿気は遮断できません。

木村様の話 良い隣人に恵まれました。そのご縁で、良い工務店にも恵まれました。信頼できるのが一番の安心感ですね。何でも相談できますもの。背もたれ付きの椅子が出来上がったのが楽しみです。また一つ、暮らしに自然の『木』が増えます。



有限会社 キーポイントホーム

弘前市泉野3丁目11-11
TEL.0172-88-7705 FAX.0172-88-7706
http://www.ki-pointhome.com/
E-mail: staff@ki-pointhome.com

